

信濃美術館整備に関する検討状況（中間整理）

事務局作成

資料1

検討項目		整備検討委員会での意見
1	利用者の視点	○全体 ○既存コレクション、企画展、ワークショップ、学校との連携という役割にどう取り組むのか、様々な観点から運営、機能をどう充実させていくか検討が必要。 ○県民意見を聞いても役立つものはなかなか出てこないが、やってはいけないことのリストは出るので非常に大事。
		○対象者 ○散歩しているときに寄れるなど、誰でも気軽に来られるような感じで考えたい。 ○若い人や多様な年齢層が楽しめる、触れる、感じられる、体験できるが重要な要素。 ○美術館に県民が気軽に足を運べるフラットな美術館、作品中心の世界ではなく、でも軽くない。その芸術精神を大事にする美術館を望んでいる。 ○あらゆる年齢層がそれぞれ楽しめる美術館が世界のトレンド。バリアフリーという選択肢になる。
		○機能 ○アーティスト・イン・レジデンスを一部につくるとか、金沢の芸術村のようにアトリエや舞台があり、様々な創作やパフォーマンスの練習ができる場があってもよいのではないか。 ○音楽と美術の両方ができるような場はなかなかない。異業種と自由に交流・コラボできることはアーティストにやさしい。そのようなコンセプトを持ってよいのではないか。 ○長野市内の美術館や県の歴史系博物館との関係、美術館同士、博物館同士のネットワークを考える必要がある。 ○学芸の活動基盤に積極的に責任を持つことが必要。例えば、小さな美術館は書籍費も困っているだろうから、新美術館に学芸員のためのリサーチセンターを置いたらどうか。 ○よい企画展をやると同時に、貸出スペースも十分にほしい。県民ギャラリーや美術館を開放することで、県民の美術館に対する理解と思いが構築されていく。
2	管理・運営	○名称 ○造り替えるのであれば、県民に親しまれそうな名前、名称が検討の対象になる。
		○館長 ○チームワークが取れて、地域の人と教育や企画などのプロジェクトを組めるような外に向けたコミュニケーションのできる優秀な人材にしないとイケない。
		○学芸員 ○長野県には美術館が105館ある。県立美術館としての役割は重要。この役割を担うにあたっては、ハード面とソフト面、特に人材の面が重要。 ○ハード面が充実すれば、それに伴い、それを上回るほどのソフト面の充実が必要。知恵がある、想像力のある館長を含めた学芸員が揃わないとイケない。 ○マネジメントの体制、企画力が非常に重要。金沢、富山、東京との競争を考えると学芸能力にお金をかけるべき。 ○信濃美術館は、改革ができない位、学芸員が少ない。
		○経営 ○指定管理やPFIなどの経営は、他県の事例を調査し、たたき台の案を出してもらったほうがよい。県が選択肢を出さないと、委員会でゼロベースから議論してもまとまらない。 ○建築会社プラス建築家で、与えられた予算の中でベストを尽くすデザインビルドのやり方もある。やるかやらないかを県の中で議論されているのか気になる。 ○コレクションにどれ位の予算を割くのか、学芸にどれくらい人件費を割くのか、オペレーションコストも含めてトータルで財務は最初から考えておく必要がある。
3	建物・立地 ※作業部会から報告あり	○既存施設 ○信濃美術館は林昌二先生の設計。入口のシンボリックな階段を残してほしい。 ○保存、再生、利活用の観点から、ただ古いものを壊して新しいものを作りたいのは名残惜しさを感じる。キャパシティを考えると難しい面があるため、収蔵場所が足りないなら、それは建て替え項目として、建て替えない場合はこうしたほうがよいというものをピックアップして項目ごとに分けたい。
		○新美術館 ○観光として魅力ある場所という観点から考えると、建築としての魅力も重要。 ○建物は公園との一体性を含めてかなり魅力的なものがいい。 ○建物で引きつけるのも一つの案。ユニークな長野、この美術館はこれだというものを決めることが大事。 ○東山魁夷館が善光寺本堂の須弥壇のように奥にあり、そこから包み込むような形で前面に、より機能的で現代的な信州らしい美術館を使う人の意見を取り入れて作ったらどうか。 ○建物だけではなく修景まで考えていきたい。善光寺からこの色はもたらってきたと分かるような使い方を建物のいい面ではないか。 ○どこから見ても山が見えるように、山を活かしながら建物を造ったら、人が呼べるのではないか。
		○周辺との一体性 ○公園の魅力や集客力は場所の力が非常に重要。公園の力を相当活かさないと厳しい。公園との一体感でここまで徹底してやった例はないというのをぜひやってほしい。 ○善光寺に来た人が県立美術館に行くというのは、長野市のまちづくりから始まる。長野市と一緒に総合的な都市計画と主体的な美術を考えるプログラムを構築してほしい。 ○善光寺があって、城山公園があって、美術館がある。回遊性のあるスポットの創出ができるとうい。 ○善光寺から美術館に来る連続性を考えていかなければいけない。 ○立地条件がよい美術館なので、単なる立て直しではなく、エリアとしての見直しが必要。 ○善光寺と美術館が、あたり一体となって文教的な地区になればよい。 ○公園そのものもアート。信濃美術館の周りもそのような場に生まれ変わると大変意義がある。 ○美術館が一つぽつんとあるのではなく、町の中にもアートが広がると素晴らしい。進化形の中で考えれば、将来的なプランがあるという余地があってもよい。
		○その他 ○箱ものをつくる時代ではない、地域全体を美術館とする場づくりをという意見は真摯に受け止めるべき。 ○愛知や越後妻有のトリエンナーレの中間、金沢 21 世紀美術館と 20 世紀の代表的美術館である豊田市美術館の中間という地の利を意識して、アーティスト・イン・レジデンスなど、エリアに開かれたネットワークの拠点として考えると未来が開ける。
4	広域集客	○差別化 ○企画展を誘致してきて展示する場所と空間という意味での競争力を考えないといけないという点では長野は難しい場所。 ○全国巡回する主要な企画展が、東京、大阪以外の筆頭に長野に来るような美術館という戦略が必要。コレクションが足りない現実からすると非常に重要。 ○公園を使いながら企画展を呼び、常設のものを決めて、ボリューム感を出していく設計能力とマーケティングの工夫が必要。 ○進化する美術館もよいのではないか。庭園は生き物なので変わっていく。美術館も機能が進化していく。次に来た時に変わっているかもしれない期待感が表現できると素晴らしい。 ○世界のトレンドも見据えての文化振興、また都市の魅力としての美術館の役割が世界的に大きく注目されている時代。県立美術館の役割は益々大切になっている。 ○この地域をどうやって長野の文化芸術発信のコンプレックスに生まれ変わらせるかという野心的な大きなアプローチでいきたい。 ○世界から来る人に対する魅力はどうしたらよいかという観点も必要。 ○松本はサイトウ・キネンや歌舞伎など動く文化芸術、長野市は東山魁夷や池田満寿夫の絵、静の文化芸術。書も含め展示の連続性のようなものをどのように考えたらよいのだろうか。
		○コレクション ○長野県が出身で世界的に有名な人の作品を買うかどうか。草間さんの作品を積極的に集めていくのかどうかは避けられない論点。他の方の作品も同様。 ○草間彌生は、松本市美術館の印象が強いからどうなのか。東山魁夷作品のアピールをもっと打ち出す企画がほしい。 ○松澤宥はコンセプチュアル・アート、観念芸術の走りとして世界的な評価がある作家。 ○近現代の作品をどう扱うのかという議論がある。東山魁夷との関係を含めて、専門家を入れて議論したほうがよい。 ○長野駅から善光寺間をアートが繋ぐ位の柔軟な発想で美術館にだどり着いてもらうとか、発想自体をコンテンポラリーアートにしていくほうが有効ではないか。 ○野外彫刻は、長野市と連携して、県立美術館の周りにどんどん置いてほしい。

○その他の意見

整備検討委員会での意見

- 委員会の与えられた時間・スケジュールの枠内で、これだけ膨大な作業を行うことは相当無理ではないか。当面はソフトを頭に置きつつ、施設などのハード面に集中して、ハードを造っている間にソフトを考えるのがよいのではないか。
- ソフトには2種類あるが、コンセプトや役割・機能などのソフトの議論は、このメンバーがかなりやるべき。そこに専門的な知識がある人がハードについて検討し、このメンバーで議論したコンセプトや役割・機能をぶつけるやりとりになる。一方、指定管理とか、展示のやり方などのソフトは後で考えればよい。
- このメンバーでこのような出題の議論で、基本構想を作ること自体、無理なのではないか。これだけのアイテムを作るとなると、議論すると言ってもほとんど自動追認装置のような会議にしないと難しい。
- 基本構想は棚上げにして、基本的方向を議論する必要がある。
- 素々案自体の資料はうまくまとまっているが、「信濃」の文字、「善光寺」など全部消したら、他に持っていても使える資料。厳しい現状分析が先あって、その上で最後にきれいなコンセプトになってくるべきだ。

信濃美術館整備に関する関係者の主な意見（1/2）

検討項目		信濃美術館職員アンケート (H27.4)	信濃美術館協議会 (H27.5.25)	美術館関係者等との意見交換会 (H27.6.7)	北信美術会 (H27.8.21、10.20)	長野A&D研究会 (H27.10.8)
1	利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○身障者用設備(トイレ、EV等)の充実 ○展示室以外の充実(図書コーナー、子どもの広場、会議室等) ○ホール、ステージ等のイベントやパフォーマンスができるスペースの確保 ○授乳室等の設置 ○作品管理の冷房を活かしたクールシェアの場の提供 ○十分なスペースの駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> ○県民ギャラリー的なものと新しいジョイント関係を構築すべき ○県民ギャラリー的スペースを県内各地の表現者の交流の場とする ○年配者を対象とした「友の会」の設置が必要 ○公園の延長のような美術館敷地内に無料で鑑賞・体験できる作品がほしい ○南信の県民も誇りを持てる施設(南北のかけ橋)になってほしい ○美術館の教育的役割の充実、強化 ○調査学習や制作研修のできる学習室の設置が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術に関心のない学生も、イベントや講演会、上映会等があれば来館する ○いけばな展等の開催可能な施設にしてほしい ○小中学生が積極的に作品に触れていく場所、作品鑑賞の機会をつくってほしい ○若者が訪れるためにはアーカイブや案内看板の整備等が必要 ○カフェレストランの充実。粉物食など信州らしい食文化や有名シェフはどうか ○県民ギャラリーなど利用しやすい仕組みづくりが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○北信展、県展ができる規模を確保してほしい ○常設、企画展スペースとは分離させた貸館スペースの確保 ○図書室、メディアルーム等のある多目的に使える建物にする ○個展、グループ展ができること。仕切り可能な構造にしてほしい ○高齢者、障がい者に配慮した建物にしてほしい ○美術団体は展覧会場確保で苦勞している。約900mの壁面が必要 	---
2	管理・運営	<ul style="list-style-type: none"> ○プロパー職員の増員、運営費増による安定した運営と調査研究の充実 ○バックヤード(収蔵庫等)の充実や展示室の安全性 ○文献調査ができる研究書籍の充実 ○文化財レスキューのための施設と専門職員の確保 ○信州の文化芸術(県内美術館、信州ゆかりの作家など)の情報の管理・保全機能が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ○館長、学芸員の専門性が重要、育てる環境が必要 ○学芸員の補充、充実が必要 ○文化芸術の発展のため、着実に計画・実行する人材が不可欠 ○展覧会を招致する館長・学芸員の専門性と出品交渉力が必要 ○所蔵作品や関連作家の研究を展覧会に反映させる ○県内の美術館の中心的な働きを期待する ○世界の作家のネットワークの中心として機能する ○信濃美術館の抜本的、根本的改革を期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内美術館の多くは1～2名の学芸員で全てを行っているため、各自の行う勉強も限られる ○県立の学芸員に頼りたい気持ちがある。県内学芸員のボトムアップを希望する ○開館時に3名の学芸員では大変なので、人材を今から育成すべき ○学芸員を大切に、人に重きを置いた整備を望む 	<ul style="list-style-type: none"> ○学芸員の充実は極めて重要であるが、指定管理制度も含めて、運営主体をどうするのか要検討である ○美術館は、人によって活かされる 	---
3	建物・立地	<ul style="list-style-type: none"> ○平屋、2階以下の低層の建物が望ましい ○メディアアートなど現代の様々な作品に対応可能な施設 ○善光寺や公園から入りやすいルートの設定 ○周辺の景観を活かした、来訪者をとり込む施設 	<ul style="list-style-type: none"> ○善光寺から城山公園までの動線をいかに引っ張るかが大切 ○東山魁夷の絵画作品のような庭園を造ってはどうか ○景観を損ねず、親しまれ、門前町に似合うデザインにしてほしい ○善光寺につながる公園的な緑地の中を周遊して巡る低い建物が理想 	<ul style="list-style-type: none"> ○本館は建築的に優れており、機能回復して残してほしい ○箱物だけをつくる時代ではない。地域全体を美術館とする「場」づくりをしてほしい ○善光寺の隣りであり、ハードは精神性の高いものが望ましい ○美術館の外側も美術館。山や川、ロックライミングの壁等あればファミリー層が訪れる ○善光寺から美術館が見えず、植栽も含めたデザインが必要 ○都市計画として、道路、駐車場、公園施設も含めたランドデザインを考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○公園と一体化した美術館にすること ○周りの山々やその風景も含めて鑑賞できる美術館としてほしい ○自然の美は誰でも受け入れやすい原点のようなもの 	<ul style="list-style-type: none"> ○新美術館と公園周辺整備による常設の集客施設が生まれることを期待
4	広域集客	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の基本的機能は3K(鑑賞・交流・観光) ○門前町長野市とのまちづくり等での連携・協調 ○国立美術館周辺のようなイベントによる賑わい創出、観光振興 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術館の核は作品。世界的な視点の先見性をもったコレクションの構築を進めるべき ○東山魁夷がどれだけ魅力があるのか検証すべき ○年代を越え先進的で若々しくエネルギーのある発信と企画に期待 ○広報力を強化して、全国に対して発信していく 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪れた後、庭園、コレクションなど何か心に残るものを考えてほしい ○常設展示を中心に考え、賞与スペースを大きくすべき ○中央の公募展が巡回できる大型施設が望ましい ○ファインアートだけでなくデザインの視点も考えてほしい ○テーマパーク的なものだけでは疑問。本物をみせる施設であるべき ○信州の美しい自然、気候、風土、東山コレクションで十分でないか ○美術は生きていることを伝え現在活躍している作家にスポットをあてるべき ○公民館活動とかぶる部分がある。企画の棲み分けを考えるべき ○大人がリードしていく大人の文化の創出を考えるべき 	<ul style="list-style-type: none"> ○中央の公募展の巡回展ができるようにしてほしい ○郷土作家の作品収蔵と展示 ○世界的に有名な作家の作品収蔵と展示 ○美術文化のシンボルの存在 ○世界を視野に、国内外の観光客をどう誘客するか 	<ul style="list-style-type: none"> ○新美術館に県内の地場産業のあらゆる産業デザインに役立てる「デザインミュージアム」を誘致したい

信濃美術館整備に関する関係者の主な意見（2/2）

検討項目		高校生アンケート・意見交換会 (H27.5～6)	中学生アンケート (H27.5～6) ※3年生分のみ	意見公募 (H27.7.6～8.21)	
1	利用者の視点	<ul style="list-style-type: none"> ○堅苦しくなく楽しい雰囲気のある美術館 ○小さな子ども楽しめる子どもの遊び場が必要 ○幅広い年齢層、どんな国の人も楽しめる、椅子やベンチを多くする ○学習室などがあれば気軽に立ち寄れる ○本格的なレストランがほしい ○入場料を無料にしてほしい ○若者のアートプロジェクトを支援してくれる美術館 ○いろいろな分野の知識を得られる美術館 ○若い芸術家を知ることができる美術館 ○展示室を多くしてほしい。(小さくともよい) ○展示を一週りで見ることでできる展示室の配置にしてほしい ○庭にもアートの展示があれば楽しい ○自由に触ったりできる美術作品の展示 	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな体験ができて楽しい場所、肌など五感で感じることもできる ○芸術家が絵を描いているところを見ることができるといい美術館 ○広くて、親やすい美術館 ○作品を身近に感じることのできる美術館 ○一日中いても飽きない充実した設備や企画内容がほしい ○幼児から老人まで気軽に楽しめる、誰でも行きやすい美術館 ○静かで落ち着いた居心地の良い美術館 ○カフェ、レストランなどがあり、きれいな美術館 ○トイレがきれいで清潔な美術館 ○外にもアートがあり、明るい感じにしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○金沢 21 世紀美術館のように、美術館の概念を取り払い、気軽にだれでも立ち寄れる美術館が必要 ○開かれた美術館をつくるのが重要 ○ワークショップや講演を行うアトリエ(外から見える) ○子どもたちが体験し、学べるワークショップが大切 ○オシャレでオリジナルなカフェ、レストランが必要 ○カフェやレストランが近くにあることで美術に関心を持つ疑問 ○館内に無料で鑑賞や体験ができるスペース、周辺にはゴロゴロしたくなる場所が必要 ○視覚障害者にも楽しめる工夫を願う。①点字リーフレット、②音声ガイド、③3Dプリンターを使った企画展、④トイレの音声案内、⑤HP、⑥職員教育、⑦ボランティアの養成・常駐等 ○託児施設の設置 ○夜9時まで開館する夜の美術館 ○気軽に寄れる勉強作業スペースの設置 ○善光寺と信州の美伝承館、産業デザイン館、衣食住デザイン館の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○「県民がいかに沢山利用できるか」が大切。「県民ギャラリー」は重要な要素 ○世界的に有名なキュレーターを招いて、企画、展示、運用など一流のものにしてほしい。芸術家の創作活動スペースを設け、見学ができるようにする ○常時、一般公開しているアーティストの制作場が必要 ○大学と連携し、芸術家志望の学生が発表できる場を作ってほしい
2	管理・運営	---	---	<ul style="list-style-type: none"> ○アートを気軽に感じられるもの。ロゴやサイン計画 ○これらが実現されたらすごい、主導する機関は何処になるのか？学芸員の守備範囲には限界がある” ○国内外の美術館と交流協定を結び人材交流の活発化 ○海外要人を信濃美術館の迎賓館で対応し、外国語が堪能な県職員を配置 ○周辺環境と美術館が最高のランドスケープをつくり、人が集うようにするため、有名建築家審査員のもと、コンペで設計者を選ぶべき 	
3	建物・立地	<ul style="list-style-type: none"> ○建物自体が芸術となる美術館 ○和風な善光寺となじむもの。和の景観の建物 ○建物を見て興味がわく、目を引く外館 ○デザイン性のある明るいお洒落な美術館 ○絵の展示だけでなく、雰囲気もほしい ○入りやすい雰囲気のある明るい美術館 ○庭をつくってほしい、自然あふれる美術館 ○環境にやさしい美術館 	<ul style="list-style-type: none"> ○外からみて面白いデザイン、人目を引くデザイン ○建物がきれいで開放感のあるデザイン ○建物自体を作品にしてほしい、建物だけでも芸術的なもの ○見ただけで「ここに行きたい」と思う建物 ○植物がたくさんある美術館、美しい庭のある美術館 ○活気のない長野に新たなイベント施設を作るつもりでやってほしい ○長野にしかない誇れる施設を作してほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ○林昌二氏の建物自体は少し弱い気がする ○長野駅と善光寺をつなぐ施設を、中間地点（門前ぶらざ）を再開発し建設すべき ○善光寺下駅や中央通りからの動線明示や誘客が必要 ○駅前エリアと善光寺エリアの分断が問題。トイゴウエストやセントラルスクエア等の中間エリアに、分館を設置すべき ○展示室や収蔵庫のスペースが狭く、バリアフリー化も進んでいないので建替えが必要 ○「まち」の賑わい創出や、周辺と一体化した景観形成・街づくりを美術館事業の目玉としているのか、それとも美術館の文化芸術活動によって結果的につくられていくものか ○旧蔵春閣辺りまで拡張して、市内を一望できる施設とする 	<ul style="list-style-type: none"> ○善光寺からの回遊性を考慮し、無散水施設を有する遊歩道を整備する ○市内循環バスぐるりん号のルートに組み入れる ○景観と調和させる必要があるが、善光寺とは調和させる必要なし。いつまでも善光寺に頼ってはいけけない ○世界遺産登録を目指している「善光寺と門前町」ゾーンに隣接している ので、世界遺産登録とリンクして、歴史館の分館とする ○建物と周辺の雰囲気に常に観光名所になるような集客力が必要 ○長野市と協力し、信濃美術館とその周辺一帯を整備してほしい
4	広域集客	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもから大人まで楽しめる様々なジャンルの展示 	<ul style="list-style-type: none"> ○もっと宣伝して多くの人々が訪れるようにしてほしい ○たくさんの人に来てもらうため駐車場を大きくしてほしい ○絵の展示位置をもう少し低くしてほしい ○いろいろな分野の美術系の作品を置いてほしい ○有名な物や誰でも楽しめるものの展示 ○いろいろな展示会、体験があればよい 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンセプトづくりにより時間をかけるべき ○明確なビジョン、コンセプトを持った美術館となしてほしい ○「現代を生きて変化する美術館」をコンセプトに加えてほしい。美術館は「静的」なものだけでなく、「動的」なものでありたい ○善光寺に来た人を美術館に呼び込むため、美術館の賑わいを外へ発信できる仕組みが必要 ○屋外広場では、クラフトフェアを開催し、地域の賑わいを創出する ○アーティスト・イン・レジデンス事業は、他の地域の活性化の手段としてとらえたほうがよい ○松本市美術館と連携してほしい。東西南北に割れがちなイメージのある長野県で、展示協力して知的文化芸術県をめざしてほしい ○質の高い保存環境と十分なスペースを希望する ○県内の他の美術館とのネットワーク拠点となり、戦略的に国内外に発信 ○新美術館を飯山市に新設。雪を素材とした作品を制作する、世界で唯一の美術館とする。越後妻有トリエンナーレの玄関口とする ○産業活性化に寄与する美術・デザインの振興 ○コレクションは、県の特色を持たせたものを収集すべき ○評価の定まらない作品を収集することも、無名作家を掘り出す意味があるが、リスクも覚悟しなければならない 	